

平成6年春季特別展

# 富士山を望む弥生の国々

東海東部から南関東の弥生文化



大阪府立弥生文化博物館

4月16日(土)⇓6月19日(日)

■考古学セミナー 午後2時～4時(1時受付)1階ホール

第1回/4月23日(土) 設楽 博己(国立歴史民俗博物館)……南関東弥生文化の伝統と変革

第2回/5月7日(土) 大塚 初重(明治大学)……戦後考古学の軌跡―登呂遺跡のすべて―

第3回/5月21日(土) 森 浩一(同志社大学)……東国をめぐる考古学―海の道・陸の道―

第4回/6月11日(土) 館長(金関 恕)と館員……「富士山を望む弥生の国々」を語る

●本館学芸員による展示解説/毎週日曜日と祝日 午前11時～特別展示室

主催/大阪府立弥生文化博物館・読売新聞大阪本社・読売テレビ

■開館時間/午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) ■休館日/毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

■入館料/個人=一般600円・高大生400円・小中生200円 団体=一般480円・高大生320円・小中生160円(団体は20名以上)

■所在地/〒594 和泉市池上町443 ☎(0725)46-2162 ■交通/JR阪和線天王寺駅から25分「信太山」駅下車徒歩7分、南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分



# 富士山を望む弥生の国々

平成5年春「みちのく弥生文化」につづく「地域の弥生文化」シリーズの第二弾として、東海東部から南関東の弥生文化をお届けいたします。登場するのは静岡県から千葉県までの、おもに太平洋側の地域。静岡県は富士山を望む西の端、千葉県は富士山を望む東の端、私たちは弥生時代のこれらの地域を「富士山を望む弥生の国々」と呼びます。

紀元前1世紀、南関東は本格的な水田稲作文化の時代を迎えます。その情報発信基地は東海東部で、それまであまり見ることのなかった、濠がめぐるムラや溝で区画する墓、そして鋭い刃先の鉄の道具など、さまざまな情報や品々が入ってきます。

今回の特別展は、紀元前1世紀代を始めとし、後3・4世紀頃までの南関東で演じられた人・物・情報の織りなすドラマチックな交流の歴史に光をあてます。また、発見されてから、半世紀を迎えた登呂遺跡もご紹介いたします。登呂遺跡は、私たちに弥生時代のムラを初めてビジュアルに語った忘れ得ない遺跡です。

皆様のご来館をお待ちしています。

## プログラム (予定)

### 第Ⅰ幕

#### 遺跡の旅

発見された遺跡を宿場町に見立て、皆様に遺跡の旅をお楽しみいただきます。

- 稲作文化が加速し始めた頃のムラ、埼玉県池上遺跡の品々
- 弥生ニュータウンのムラ、神奈川県大塚遺跡の品々
- 東海からの移住者がつくったムラ、神奈川県神崎遺跡の品々 — など

### 第Ⅱ幕

#### 弥生の国々の神話世界

神話世界の語り部たちをご紹介します。

- 穀霊を運ぶ木の鳥、静岡県雌鹿塚遺跡
- 霊魂の宿る土の家、神奈川県子ノ神遺跡 — など

### 第Ⅲ幕

#### 銅鐸分布圏の内と外

2・3世紀、多くの銅鐸が静岡県浜名湖周辺に埋められます。銅鐸の埋納を契機としたドラマを「南関東、古墳時代への道」として、再現いたします。

- 埋められた銅鐸、静岡県前原の銅鐸
- 畿内と交流した人の墓、千葉県神門3号墳の品々 — など

### 第Ⅳ幕

#### 発見されてから半世紀を迎えた登呂遺跡

遺跡紹介のほか、登呂遺跡を通じて考古学のはたす役割を考えます。



穀霊を運ぶ木の鳥 (静岡県雌鹿塚遺跡)



埋められた銅鐸 (静岡県前原の銅鐸)



弥生ニュータウンで  
見つかった甕  
(神奈川県折本西原遺跡)

